

平成22年7月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859）

新発見『山の神戸遺跡からの遺物』 新発見

「山の神戸遺跡」は、青梅市梅郷と柚木町の境、明王沢に架かる明王小橋南側上段の山中に位置しています。山の中は、なだらかに傾斜はしているものの、広大な平地となった部分があります。その北側先端部分に、昭和33年、水道タンクを設置する工事を行った際、多数の縄文土器のかけらや石器が出て来たことにより遺跡の存在が明らかとなりました。

発見された遺物の中でも、縄文時代中期から後期前半の土器は、つい最近まで地元にお住まいの渡辺友一郎氏の手により、かけらのままお蔵の中で大切に保管されておりました。

それをこのたび復元し、写真のような立派な土器となりました。

口縁部の内径は34cm、円周120cm、現存の高さ29cm、重さ6.5kgで、今から4千年位前の勝坂式土器の古い時代に位置するものです。縄文は一切なく、器面を横に幾つかに区切りその区切りを単位として中に模様を入れているのを特徴としています。

また、口縁部には対角線上に立体的な装飾のあったことがわかり、その一箇所は特に大きなものがあったようで、製作当時、そちら側が重みで若干歪んでしまったことも復元をしてわかりました。また、



写真：復元された土器

この土器が完形品であるとする、文様の区分は4区画であったと考えられますが、その下部1区画がきれいに無くなっています。そして、口縁部の装飾が作為的に消失させられていることから、住居内の床面に設けられた囲炉裏の囲み部分に使われていた可能性も考えられます。今で言うリサイクル利用です。しかし、出土状態が不明なため、正確な判断はできません。

その後、平成7年には同遺跡から「石棒」が完形のまま発見されました。市内では存在しない凝灰岩系の石材で作られており、長さ112cm、頭部が二段となり、後部はやや磨り減った状態となっています。おそらく、頭部を蔓や縄で縛り、遠方から背負ったり、引きずったりして運んできたものでしょう。

この石棒は多産や安産を祈願し、信仰の対象物とされたとする説が強く、本数は多くありませんが市内の遺跡では時々発見されています。畑を耕作中に出土する例もあり、神社に奉納したり、祠を建てて祀っているところもあります（一覧表参照）。表題では新発見としましたが、復元して初めてこのような土器であったという発見と、なかなか完形では発見されない石棒の新発見がこの文化財ニュースとなりました。今回の文化財ニュースをお読みになって、私の家にも土器のかけらがたくさんあるというような方はいませんか？そのような方がいらっしゃいましたら、ぜひ郷土博物館までご連絡をお願いいたします。

その存在が青梅市の原始時代の年表や事実を変える可能性もあります。ある程度完全に残っている場合は復元をいたします。そして、お手元に置きながらも、多くの皆様の目に触れることが文化財の重要な役割となるでしょう。もしもございましたら、ご連絡をよろしくお願いいたします。

(文責 鈴木 晴也)

青梅市内で今までに出土した石棒一覧

遺跡名	所在地	特徴	保管場所
大平遺跡	青梅市 沢井二丁目	頭部あり、緑泥片岩製、部分	青梅市郷土博物館
西城遺跡	青梅市 二俣尾四丁目	全体の長さが不明なほど長いとのこと。信仰対象物として祀ってある為調査はできず。麻羅地蔵と呼ばれ花街の人々が以前はよく訪れたとのこと。	青木さんの畑の中に、立った状態に祠を建て祀ってある
山の神戸遺跡	青梅市 梅郷六丁目	完形品	渡辺さん宅
山の神戸遺跡？	青梅市 梅郷六丁目	頭部の一部分に欠損はあるが、先頭部としての確認は明確	渡辺さん宅
中郷原？ (遺跡名なし)	青梅市 梅郷五丁目	幾つかに折れたものを奉納	飯綱権現社祠内
橋上遺跡	青梅市 畑中二丁目	円筒状のかけら二個が別々の場所から発見されたが、復元可能となった。	青梅市郷土博物館
下内遺跡	青梅市 畑中一丁目	円筒状のかけら	青梅市郷土博物館
T-52遺跡	青梅市 千ヶ瀬六丁目	完形。電柱工事を行った際出土。全国的にも重要。緑泥片岩製のものは崩れてしまい採取できず。	青梅市郷土博物館
勝沼城祉南	青梅市 東青梅六丁目	完形。付近に二か所遺跡があり、そこから出土したものを祀ったか？	通称「おしゃもじさま」の祠内に保管
久道遺跡？	青梅市 成木五丁目	東側に久道遺跡がありそこで出土したものを祀ったか？	山中の祠内にあり
駒木野遺跡	青梅市 駒木町三丁目	安山岩。一部分のみ残存	青梅市郷土博物館
下前遺跡	青梅市 塩船	凝灰質砂岩。一部分のみ残存。	青梅市郷土博物館